

特選

2009

金融広報中央  
委員会会長賞

「金融と経済の明日」第7回高校生小論文コンクール

# 自分だけのライフプランを作るために

兵庫県・兵庫県立小野高等学校 1年 東條 早祐実

私は将来、幼稚園教諭になりたい。できることなら保育士の免許も取り、子供たちと多く<sup>かか</sup>わられるような仕事がしたいと思っている。もともと小さい子供とふれあうのは好きだったが、中学生の時に幼稚園で職業体験をした時には、「絶対子供と関わる職業に就きたい」と考えるようになっていた。しかし、この仕事はただ子供が好きなかただけではうまくやっいけない。幼稚園教諭・保育士になりたいと決めた時点では、これからどのように頑張っていけば良いのか、まだ曖昧な程度にしか分からなかった。

今年の6、7月に、ファイナンシャルプランナーの方と公認会計士の方に来ていただいて特別講義を受ける機会があった。普段の生活ではあまり耳にしない言葉や、社会の仕組みなど難しいことも多かったが、その分、新しいことも多く吸収できた。ファイナンシャルプランナーの方に来ていただいた時、初めて「ライフプラン」という言葉を知った。最初は難しいイメージを持っていたが、講義を受けるうちに自分の将来に深く関係のあること、今にも充分関係しているものばかりなのだと気づいた。

毎日の自分の生活、つまりライフイベントは、ただなんとなく過ごしてしまうよりも、この日学んだようにひとつひとつ計画を立てて過ごしていくことでより多くのメリットが得られるのだと思う。では、計画を立てて過ごすにはどうすればいいのだろう。

そんな時に、2回目の講義があった。来ていただいたのは公認会計士の方で、1回目の時とは違うまた新しいことを知ることとなった。この日一番私の記憶に残ったのは、「間違いノートを作ろう」という話だ。

一度作れば何度でも使える、書き直せる。これは、自分で考えた計画が失敗したりうまくいかなかったりした時でも、ノートの使い方次第で小さなライフプランから大きなライフプランまで考え直すことができるものなのだと考えた。つまり、公認会計士の方が言いたかったのは、「失敗は成功のもと」を、どこかに書き留めることで形にして残すべきだ、ということだと思う。

また、簿記検定の話で、検定合格の正しいあり方は85点以上で合格することが必要だということも参考になった。たとえ70点ギリギリで合格しても、次の検定に<sup>つな</sup>繋がる部分が少ないという意味だ。これは簿記検定に限らず、多くのことに関係してくると思う。大きくまとめれば、何かひとつのものを適当にやり過ぎてその場を乗り切れても、次に進む力を蓄えていないため結局次の段階で乗り切ることができないという意味だからだ。

この二つの講義で、自分の将来に向けての頑張る方法に、多くのヒントを得た気がする。まずは日々の生活から少しずつライフプランを意識すること。その中から失敗したものは記録し、新しい考えを出すこと。そして、今すべきことは全力で取り組んで、次に繋げられるようにすること。この三つを忘れないようにしなければならない。

私はつい最近まで、将来幼稚園教諭をするのに必要でないものは、あまり力を入れなくてもいいのではないかと考えていた。例えば検定などがそうである。将来役に立つかどうか分からないため、1級をとれても意味がないかもしれないと考えていたのだ。

しかし、その考えは今回の講義を受けることで変わった。検定に向けて取り組んでいる時間にこそ意味があるのだ。忙しい高校生活の中にプラスして検定の勉強を入れることで、時間のなかで多くのものをこなす力がつく。計画を立てる力もつき、小さなライフプランも立てられるようになる。幼稚園教諭や保育士という仕事は、忙しい中でも園児ひとりひとりに目を向け個々にあった対応をし、なおかつ自分の仕事もこなさなくてはいけない。今考え直せば、検定は別の角度から見れば、この職業をこなすために必要なものだったのだ。

多くのことを学んだ今、私は自分の周りにあるものすべてを一生懸命に取り組もうと思う。意味がないように思えることも、何か別の場面で活かされるかもしれないし、失敗の数が多いほど成功の可能性も大きくなる。それを繰り返すうちに計画を立てて生活できるようになる。また、経験することが多ければ多いほど幼稚園教諭となった時に園児たちに与えられる知識も幅広いものとなる。

このようなことを文字で表すのは簡単であっても、きっと実際に行動するのは難しいだろう。しかし、まずは自分自身がしっかりとした人間にならなくては立派な幼稚園教諭・保育士にはなれない。

私は、園児たちの見本になれるような幼稚園教諭になりたいと思っている。園児たちの頭の中に、先生みたいな人になりたいと記憶に残るような幼稚園教諭だ。だからそのためには、これまで述べてきたように多くのことを実行していくことが大切なのだ。

とにかく全力で高校生活を頑張り抜いた後は、児童学や教育学部のある大学へ進学したいと考えている。幼稚園教諭に必要な知識以外、つまり計画性や思考力、行動力、経験は高校生活の間ですべて身につけるつもりでいるから、ここからが第二のスタートとなるのだ。きっとその時に初めて知ることも多くあって混乱もするだろうけど、今回の講義のようにそこからまた新しい発見もあるだろうと思う。

大学でこの職業について学んだ後は、ついに幼稚園教諭・保育士になるための試験が始まる。高校生活で検定や部活など、頑張った分がここで発揮されると思う。そのためにも今の生活を、将来のためとして一生懸命取り組まなくてはならない。

幼稚園教諭の免許を取り、保育士の免許も取った後は、ここがもう一度新しいスタートになるだろう。私は主に幼稚園教諭として働き、空きが出た時は保育園で働く形をとり、できるだけ多

くの子供たちとふれあえるような仕事をして生活したいと思っている。実際にこうした仕事の形をとっている人もいるので、できないことはないはずだ。そして、たくさんの子供たちと過ごし  
ながら、いい影響を与えたり与えられたりして、毎日を過ごしたい。

将来の夢が叶った後も、日々の中で学ぶことは多いはずである。現在頭の中に描いているライフプランの図を、実行したり考え直したり、新しいことを付け加えたりして、いい人生が送れるよう意識を高く持ちたい。

